

生井利幸先生。

昨日は、非常に多くの学習機会を賜与していただき、ありがとうございます。

クリスマスプレゼントを受け取りたい、とお願いした私に、許可を賜与していただいたことは、本当に嬉しかったです。

昨日の朝の音楽鑑賞の経験は、音楽を超えていました。私が聴いた音、見えたもの、見たもの、は、音楽ではありませんでした。鑑賞してから16時間経った今も、今朝の余韻と見たものが自分自身の中に残っています。本当に、ありがとうございます。

本日は、以下の2つのレポートを提出させていただきます。

- 英語道弟子課程 音楽作品鑑賞機会  
「第1回・2019年クリスマスプレゼント」  
ジョヴァンニ・ピエリカトーラ: パレストリーナ Magnificat Primi Toni  
鑑賞レポート
- 英語道弟子課程 特別稽古 "超"音楽鑑賞経験  
「第3回・2019年クリスマスプレゼント」  
リヒャルト・シュトラウス: 交響詩『ツァイトシュタインはかく語りき』作品30  
受講レポート

2019年11月30日(土)  
英語道弟子課程弟子 H.K.

英語道弟子課程 <音楽作品鑑賞機会>

「第1回・2019年クリスマスプレゼント」

ジョヴァンニ・バティスタ・グァーニニ・ダ・パレストリーナ

Magnificat Primi Toni

鑑賞日 2019年11月23日(土)

鑑賞場所 英語道弟子課程・第一稽古場  
(銀座書齋・「奥の聖域」)

レポート提出日 2019年11月30日(土)

英語道弟子課程 弟子 H.K.

# 弟子専用ウェブサイト

世界レヴェルへの道

概説ページ

弟子専用ページ

弟子の紹介

弟子の等級

弟子選考試験

講師プロフィール

HOME > 世界レヴェルへの道 >

世界レヴェルへの道 告知 芸術

2回も3回もあるのかなと想像してしまう。

## 【第1回・2019年クリスマスプレゼント】 ジョヴァンニ・ピエルルイーダ・ダ・パレストリーナ(1525-1594) : Magnificat Primi Toni

投稿日：2019年11月18日

「第1回・2019年クリスマスプレゼント」として、英語道弟子課程弟子たちに対して、2019年11月の第4週目の英語稽古にて、以下の音楽作品の鑑賞の機会を賦与する。

### 1 鑑賞作品

ジョヴァンニ・ピエルルイーダ・ダ・パレストリーナ

Magnificat Primi Toni (日本語名：第一旋法のマニフィカト)

鑑賞時間：11分56秒

### 【生井利幸の弟子たちにとってのパレストリーナ】

ジョヴァンニ・ピエルルイーダ・ダ・パレストリーナ(1525-1594)は、イタリア・ルネッサン

ス後期に活躍した音楽家。西洋文明社会に於けるパレストリーナは「教会音楽の父」と称され、

所謂、ローマ・カトリック教会音楽を中心に作曲。本作品は、東京・銀座の「銀座書齋」に於い

ても、頻りに流れている音楽作品の一つ。生井利幸の弟子たちは、特に、銀座書齋入居ビル・清

掃活動、または、Quasi-Ginza sanctuaryに於ける学習活動の際、「銀座書齋に於いて生井利幸

が生み出す神聖美」を体験する一環として、「頗る自然な空気感・形」で本作品と接している。

### 2 鑑賞場所

英語道弟子課程・第一稽古場

(銀座書齋・「奥の聖域」)

### 3 申し込み方法

2019年11月18日(水)まで。

電話のみ。

### 4 その他

鑑賞当日は、英語稽古の時間枠に於いて、銀座書齋・「奥の聖域」にて「聖書入門」(受講前)

に、本作品の鑑賞を正式神聖賦与。その後、1週間後に、同作品鑑賞レポートの提出を要する。

→ 読み方がまだわからない。  
 フラン語辞典、ギリシア語辞典、古代ギリシア語  
 イタリア語辞典、バロックの音楽作品一覽、  
 教会音楽の作品一覽、色々見たがわからない。  
 → 非常にうれしい。  
 Primiは、  
 第一の、という  
 意味のようで、  
 あることは  
 わかた  
 Toniは  
 調。  
 → 今回のことである!!  
 → 申し時に、  
 「この音楽作品の鑑賞の  
 機会を、ぜひ、賜りに  
 頂きたい。」と書いたが、  
 態度がよか、謙虚さが  
 溢れている。  
 → 気さく  
 清掃中に  
 間接的に  
 生井先生の  
 非常に見まわっている  
 証。

「普通」の  
 社会で  
 生きることは  
 無理  
 は無理  
 はず

transubstantiation  
 ↓  
 死に臨む  
 ↓  
 超自然と自然の違い  
 ↓  
 自然な存在者になること  
 ↓  
 失物のお返し

生井先生に、お電話し、  
 このプレゼントを授けたい  
 希望を整理していただいた。  
 ↓  
 先生より  
 ○印刷(本ページ)お返が  
 事前の準備レポートを  
 作成、当日(11月)お返せると

→ 糸は、12月始めの稽古時に提出。

2019年11月18日(第1回・2019年クリスマスプレゼント)

ジョヴァンニ・ピエルヴィジタ・パレストリーナ(1525-1594): Magnificat Primi Toni

「第1回・2019年クリスマスプレゼント」として、英語道弟子課程弟子たちに対して、2019年11月の第4週目の英語稽古にて、以下の音楽作品の鑑賞の機会を賦与する。

クリスマスプレゼント

↓  
生井利幸先生から弟子への Transubstantiation.

弟子は、プレゼントを受け、自分の体の中に入れ、  
その一部になる。

第1回・2019年

↓  
今は、今しかない。明日はない。  
今は、今の瞬間

英語道弟子課程 弟子たち

↓  
生井利幸先生になることを目指している 先生の化身になる。  
本当の人間になることを目指している

2019年11月の第4週目

↓  
クリスマスを迎える準備。

あとの一ヶ月、どう生きるのか ⇒ 結局、今しかない。

「聖書入門」受講日 ⇒ 学問として受講するのではなく、

自分に賦与された生の使い方を  
学ぶ。そのようにして、生きる。

音楽作品 ⇒ 生井利幸先生



# 1. 音楽作品

ジョヴァンニ・ピエルヴィージ・ダ・パレストリーナ  
 Magnificat Primi Toni (日本語名: 第一旋法のマニフィカト)  
 鑑賞時間: 11分56秒

## [ 生井利幸先生の弟子たちにとってのパレストリーナ ]

ジョヴァンニ・ピエルヴィージ・ダ・パレストリーナ (1525-1594) は、イタリア・ルネッサンス後期に活躍した音楽家。西洋文明社会に於けるパレストリーナは、「教会音楽の父」と称され、所謂、ローマ・カトリック教会音楽を中心に作曲。本作品は、東京・銀座の「銀座書斎」に於いても、頻繁に流れている音楽作品の一つ。生井利幸先生の弟子たちは、特に銀座書斎入居ビル・清掃活動、または、Quasi-Ginea sanctuary に於ける学習活動の際、「銀座書斎に於いて生井利幸先生の「生み出す神聖美」を体験する一環として、「願う自然な空気感・形」で本作品と接している。

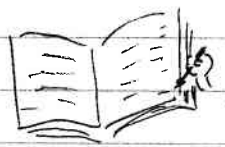
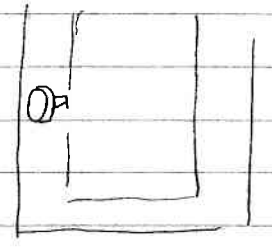
ジョヴァンニ・ピエルヴィージ・ダ・パレストリーナ  
 他の音楽作品も、銀座書斎で鑑賞させていた。

→ 生井利幸先生。精神 を 表したモノ  
 ... と 書いていて、またもや 深い事に 気づいてしまった。



清掃活動中...

聞こえてくる  
 パレストリーナの  
 マニフィカト ♪

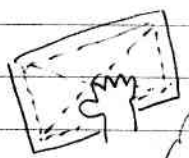


学習活動中...

生井先生が、銀座書斎に到着後、お部屋を換気された後に、マニフィカト(※他の音楽)をかけて、浄化されている。

⇒ この、生井先生にとって "自然なこと" を

弟子は「自然に」受けている。



今日はリーディング  
100字71カット  
27=71カット  
が流れている...

どのような精神で、来客、受講生、弟子を  
迎えるのか...

「銀座書齋」とは何か...  
学校か 学問所か  
授業をするところなのか

1対1で「人」を育てる  
教育的指導をされること  
Tさんか...  
それを受けられること  
Tさんか...

心とあけて  
換気する  
3人でわからない  
浄化するとは  
どういうことか...

先生自身は  
出発前に浄化され、  
5分はここに着いて  
なおされる...  
先生のいな部屋には  
何か残るのか...

このようなことを 自然と 考えるような 時間にもなる。  
特に 27=71カットは 男声だけで構成されている...  
→ 巧い

## 2. 鑑賞場所

英語道弟子課程・第一稽古場  
(銀座書齋・「奥の聖域」)

↳ 地球の 地上には 無い場所。  
そこに 階段を上って 行ける という現実がある

## 3. 申し込み方法

2019年11月18日(水)まで。  
電話のみ。

## 4. その他

鑑賞当日は、英語稽古の時間枠に於いて、銀座書齋・  
「奥の聖域」にて「聖書入門」を受講前に、  
本作品の鑑賞を正式神聖賦与。その後、1週間。

同作品鑑賞レポートの提出を要する。

<先生より>

- 本告知ページを印刷の上、精読し、  
事前の準備ノートを作成。当日に見て頂く。

<音楽鑑賞レポート>

ジョヴァンニ・ピエリルイーゴ・ダ・パレストリーナ (1525-1594) : Magnificat Primi Toni

Magnificat Primi Toni が流れ出して、私は、「耳で聴く」、  
「聴く」とは、耳を使うこと」というのを、忘れていました。

Magnificat Primi Toni は、非常に美しい曲で、美しい歌声で  
構成されていますが、私にとっては、生井利幸先生 そのものです。

だからなのか、「聴く」という行為をするより、「自然にそこにいて、  
感じていた」という感じで、私は、11分56秒を過ぎました。

空気を吸うように、ごく自然に、その美しさの中に、私はおりました。

もはや、いたところは、銀座でも東京でもなかつたです。日本でもなければ、

世界のどこかでもなかつたです。生井利幸先生の祈、という表現が

一番ぴったり合います。先生の、精神性の見えるところにいる、それが

自然で、普通のこと... でした。そこにいることが、私の「普通」

になっていたと感じて聴いていました。

11分56秒の時間、そこにいられたのは幸せでした。

言葉はわかりませんが、体と心と全体で、音楽に触れました。

その場の空気を無意識に吸える喜びを感じ、男声から女声へと

変わる箇所を感じ、節々に響く余韻を感じ... 生井利幸先生が

大きく、大きく、感じられました。大きな球体の中にいるようでした。

そこにいて、感じられる... というのは、とても幸せでした。

以前だったら、「どうして先生はこの機会を賜与されたのか」

「このような精神境地になれるよう、自分を磨くんだ」という、



問いかけ、回答をめぐらせながら聴いていました。今日は、純粋に  
そこにいることだけに致しました。すると... 幸せ、幸福感、そこに  
いることが普通にたまた自分を感いました。

後で、このレポートを作成する際、自分が感じていたことが  
怖くなりました。「美しさの中にいることが普通とたまた」なんて、  
本当なのか？ 勘違いではないのか？ と... おそらく、勘違いです。  
酔っているだけかもしれませんが... 酔いたくないです。そのためには  
どうすべきか？ もっともっと、たくましく行動する。それではないことを  
行う。この、美しい音楽を鑑賞させていたたいた経歴は、  
「プレゼントを頂いてうれしい」で終わりにさせたいよう。  
今から気を付けなさいと いけない、と 思いました。

最後に、当日、「奥の聖域」へ向かう途中に感じたこと、考えた  
ことを書きます。

鑑賞の場所である「奥の聖域」に向かうとき、私自身、「わたし」  
がありませんでした。「無」の状態です、歩いていました。

「奥の聖域」の入口に着いて、お辞儀をしたあと、「どうやって入れば  
いいのだろうか？」と悩んだ程、非常に、非常に、狭い入口が  
作られていました。狭くなればなるほど、非常に嬉しいです。  
瞬時に、もし、体の一部が当たったら？ ということを想像され  
ました。大事な時間を目前に控え、体の一部が、入口にある  
絵画に当たり、その場がめろめろになるという最悪の場面

を自分引き起すことが想像され、非常に怖かったです。  
恐怖に伴うから、少しでも広いつらを探そうとする習性が  
人間にある、ということも、入口で、実感し、学びました。

無事に、「奥の聖域」に入室後は、非常に美しい空間が  
ありました。純粋無垢で、穢れのない空気感の下に、

テーブル、その上に、きれいに整えられた、しわの無い、白いクロスが  
斜めに敷かれ、聖書が置かれており、箴言のページが  
開かれておりました。すいそほには、シルバーのろうそく立てが、

「最後の審判」の手前で、聖書の向こう側に立てられ、火が  
灯されていました。大きな神聖なる空気感、空間の中で、

「自分」は、どうあるべきか、を、その姿が伝えているように感じました。